

## ● 認知症の種類

認知症は、原因となる病気によっていろいろな種類があります。有症者数が多いのは以下の4つです。

最も多い

### 変性疾患

#### アルツハイマー型 認知症

脳の神経に異常なタンパク質がたまり、正常な神経細胞を壊す。

- 記憶障害から始まる
- 物忘れの自覚がない（乏しい）
- ゆるやかに進行する

### 脳血管疾患

#### 血管性 認知症

脳梗塞や脳出血など血管性疾患が原因で、脳の一部の神経細胞が壊れる。

- 機能低下はまだらに起こる
- 人格や判断力は比較的保たれる
- 再発のたびに段階的に進行する

#### レビー小体型 認知症

脳の神経にレビー小体(異常なタンパク質)ができ、神経細胞を壊す。

- 認知機能の変動が見られる
- 実際には存在しない虫や動物、人が見える（又は見間違える）
- 手の震えや小刻み歩行などのパーキンソン症状がみられる

#### 前頭側頭型 認知症

脳の前頭葉、側頭葉のいずれか又は両方に萎縮がみられる。

- 物忘れはあまりみられない
- 同じ行動や言葉をくりかえす
- 社会のルールを守れなかったり、周囲に配慮できなくなる
- こだわりが強く怒りっぽくなる

### 軽度認知障害(MCI)・・・健常と認知症の間の状態

- 本人または家族が認めるもの忘れはありますが、日常生活は自立あるいは軽い障害を認める程度です。
- この段階で治療を始めた、生活習慣を整えることで認知症への移行を防ぐことが期待できます。

### 若年性認知症・・・64歳以下の方が発症する認知症の総称

- 発症年齢の多くは50代で、血管性認知症とアルツハイマー型認知症が多く、前頭側頭型もみられます。
- 仕事でミスが重なったり、家事がおっくうになっても、疲れや更年期症状などと思われ診断が遅れることがあります。
- 経済的問題や家庭内の問題が発生しやすいため、「何かおかしい」と思ったら早めにかかりつけ医等に相談することが大切です。